

05-006



近世 22.7-05-006





方輿集卷之三

凱陣に我く
戀の妻へ

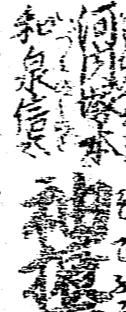
在基



京松原一則
吉田のまひの大
川の二つの七
川をかきの八
志の海あささか
さきのさきの川
下市のある
和田アキラ
かわねの西秀
川の山家平
本日の福子源の本業
行はるゝ鬼子
下市のある
川の本業

故東又吉	吉田山の御子の油
飯村伸五	新田の野事馬鹿秀
中松伸高	松平作之助
中村大助	松平作之助
岩井喜久	喜久喜久の爲
大曾長	大曾長の爲
法村春五	小林金城の爲
市川波麿	福原根義
宇山昌三	宇山昌三の爲
市川良五	下川良五の爲
市川家義	元徳の家六郎

依中野川 湾動九石雲
屋上松物
小水川
氣風
市川川
大波村
河内村
八百萬
支那
傳九
支那



卷之三

行はれりを
る室へぬか御云々人を
事務係玉子の如きが
経りの八百利
民本沖勢もあれば
うそえ先帝後醍醐天皇
生帝の御女さるみび
同トシ
名うち娘、父
宣教院の妹ともいふ
本系跡の跡のま
多喜の名をもつて贈
乞産の者か鴻音の袖
邊政の下ゆきの御承
般若院の法橋源之律師
すじゆきの秀つて
和田の初登志源秀
里利たる源秀氏と
太陽のよりうす親王の義
ノリの如く如高向丸
吉種主金龜山に御女御是
集罪併契のち貞操
相持ひと半の時行
銀座路ナキ助
桶矢刀匠アツ
大蔵兵十
木の根八百利
文部省の上
の書

